

平成28年度

# 全国学力・学習状況調査結果



## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）

1 実施期日 平成28年4月19日（火）

### 2 実施概要

- (1) 対象者 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童・生徒
- (2) 対象教科 国語、算数・数学
- (3) 調査内容 学力調査： 学力テスト形式で行われ、それぞれの教科ごとに「主として『知識』に関する問題(以下、「A問題」)」と「主として『活用』に関する問題(以下、「B問題」)」があります。
- 学習状況調査： 生活習慣や学習環境等に関するアンケート調査です。
- (4) その他 調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。そのため、文部科学省の方針に従い、本年度の学力調査の平均正答率については、小数点以下を四捨五入した整数値で公表しています。

### 3 結果概要及び考察

#### (1) 学力調査より

##### ア 結果一覧表

〈小学校〉

教科		平成28年度			平成27年度		
		本市	県	全国	本市	県	全国
国語	A	71	72	73	67.6	68.4	70.0
	B	56	57	58	65.6	65.8	65.4
算数	A	79	79	78	75.3	75.9	75.2
	B	45	45	47	41.8	42.5	45.0

〈中学校〉

教科		平成28年度			平成27年度		
		本市	県	全国	本市	県	全国
国語	A	74	74	76	74.5	73.3	75.8
	B	64	64	67	66.2	64.1	65.8
数学	A	60	60	62	63.3	61.7	64.4
	B	42	41	44	41.9	39.4	41.6

いずれの教科も、ほぼ県平均と同等の結果でした。ただし、全国と比較すると、小学校の算数A問題以外は、2ポイント程度低くなっています。

イ 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

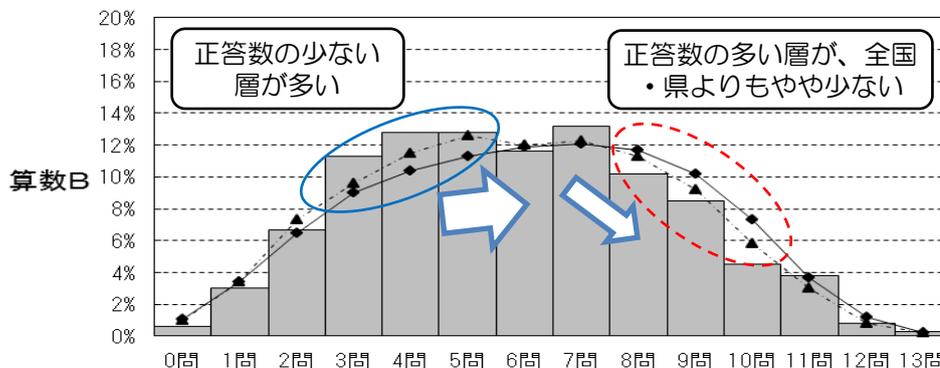
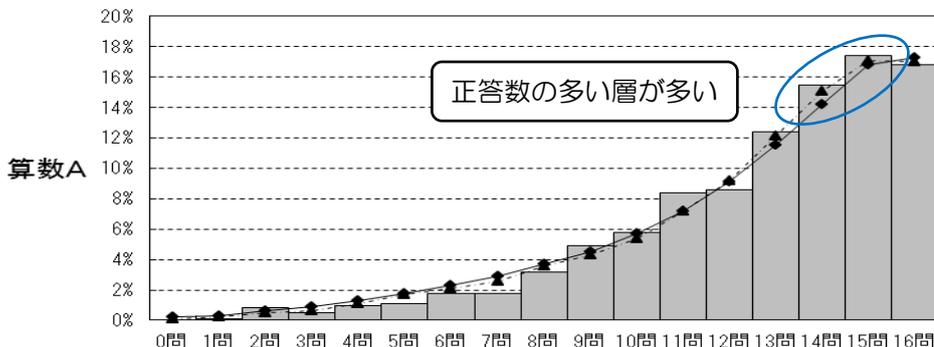
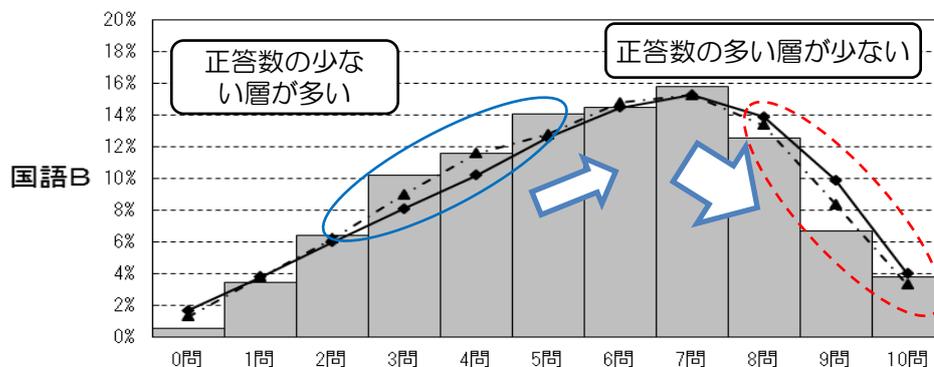
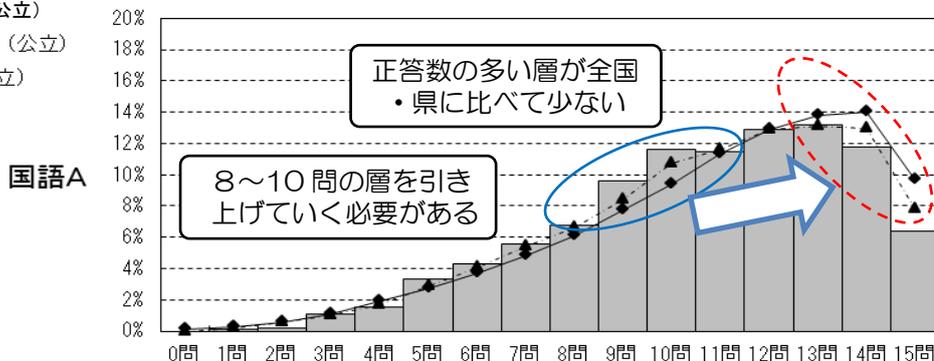
各調査で、どれくらいの正答数の児童・生徒が多かったのかを表すグラフです。

〈小学校〉

- 霧島市（公立）
- ▲--- 鹿児島県（公立）
- 全国（公立）

全国・県平均をおおむね上回っている範囲

全国・県平均より下回っている範囲



小学校においては、算数A問題以外の調査では、全国・県と比べて上位層が少ないという課題が見られます。

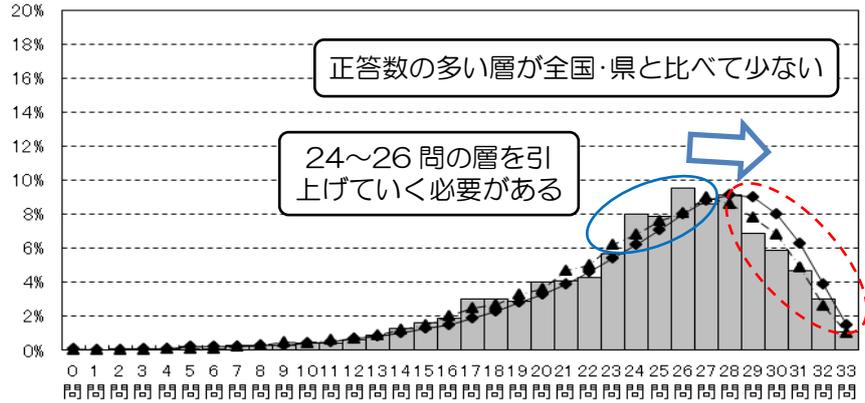
〈中学校〉

■ 霧島市(公立)  
 -▲- 鹿児島県(公立)  
 ● 全国(公立)

国語A

全国・県平均をおおむね  
上回っている範囲

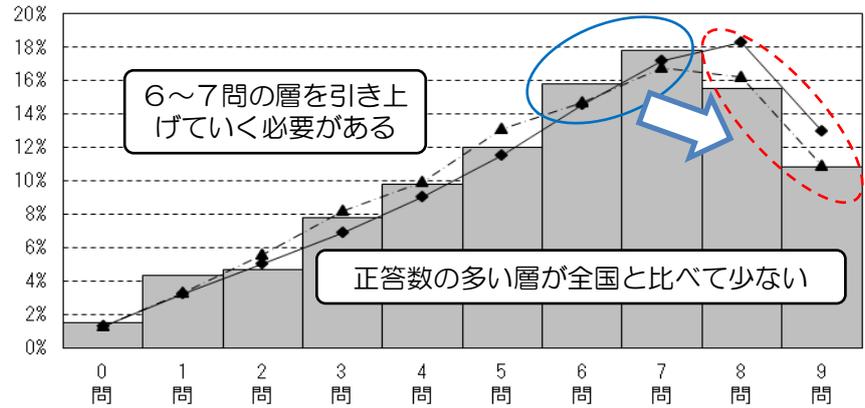
全国・県平均より  
下回っている範囲



国語B

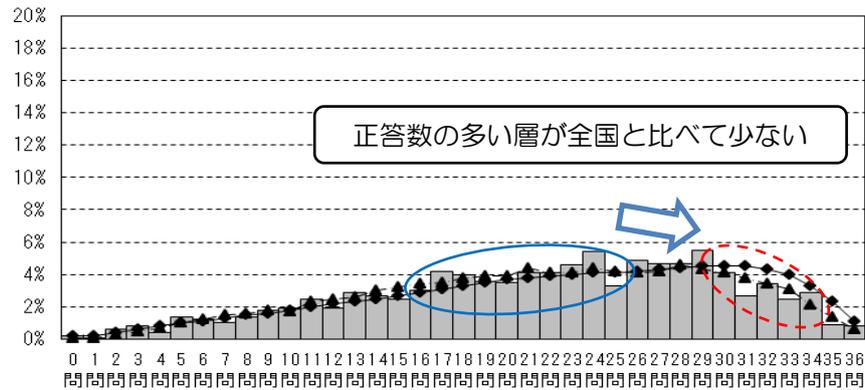
6~7問の層を引き上げていく必要がある

正答数の多い層が全国と比べて少ない



数学A

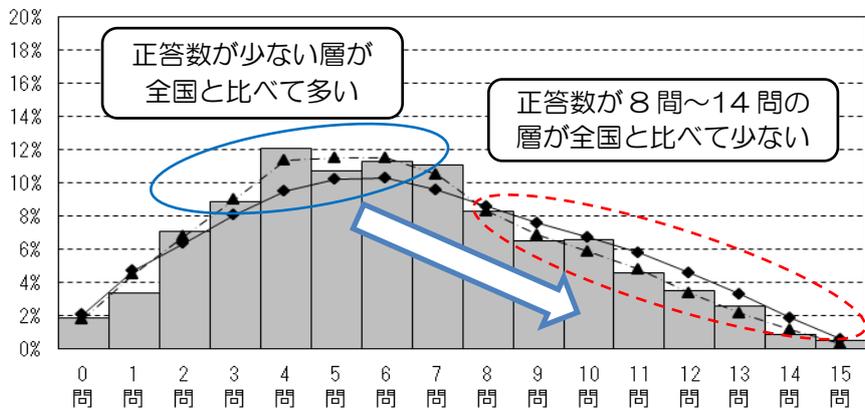
正答数の多い層が全国と比べて少ない



数学B

正答数が少ない層が全国と比べて多い

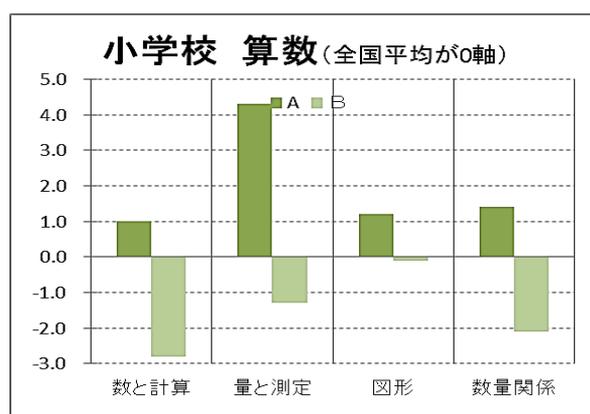
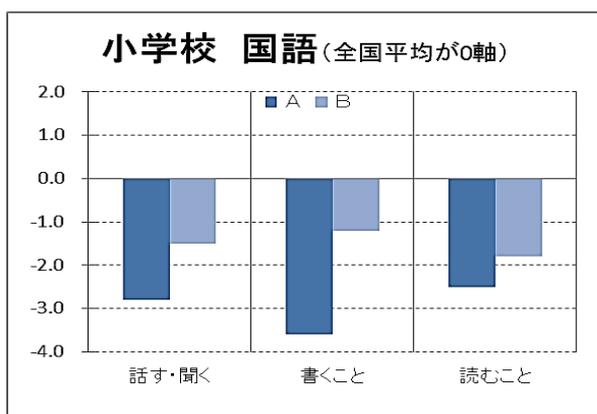
正答数が8問~14問の層が全国と比べて少ない



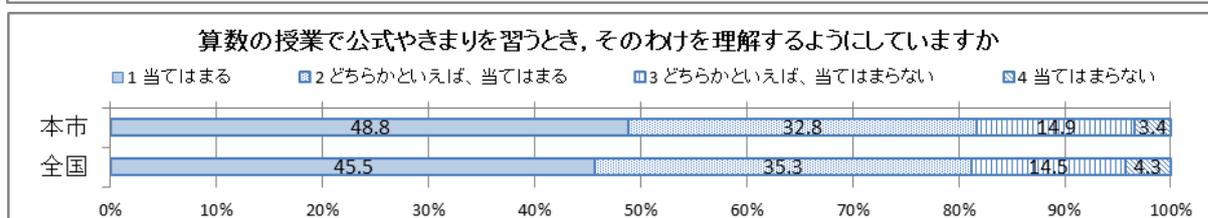
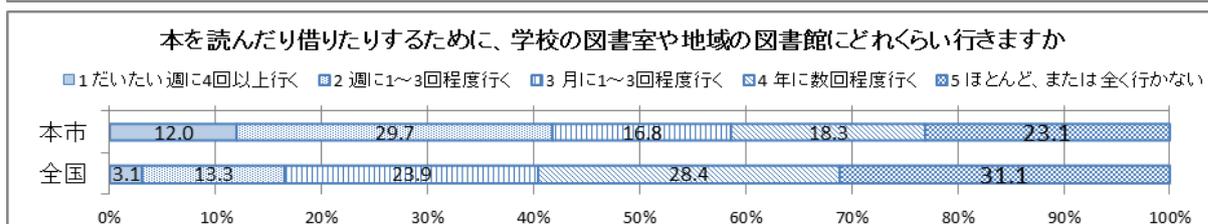
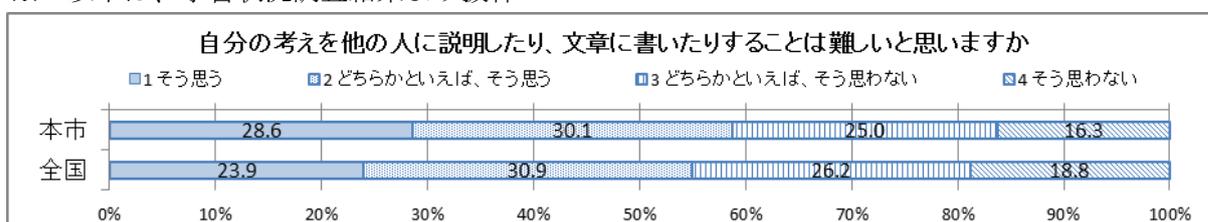
中学校においては、全調査で上位層が少ないという課題が見られます。

## ウ 領域別（全国比）

各教科の内容ごとの調査結果です。全国平均を0軸として、棒グラフで表しています。



※ 以下は、学習状況調査結果より抜粋



### 国語

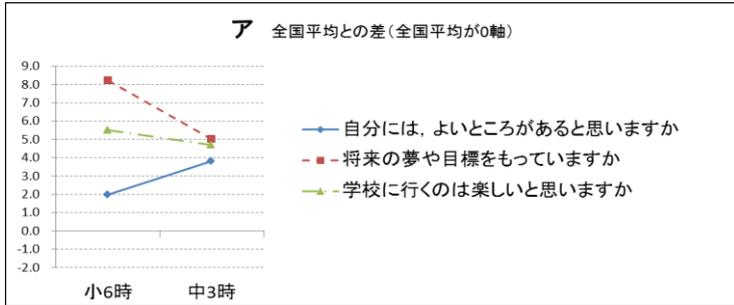
- ・ 自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることに苦手意識をもつ子供が多く、正答率も低い状況です。説明し合ったり、文章に書いて交流したりする機会を増やす必要があります。
- ・ 図書室等を利用して本に触れ、読書をする子供は多いにも関わらず、「読む力」は充分に身に付いていない状況です。読み取りの「質」に目を向ける必要があります。

### 算数・数学

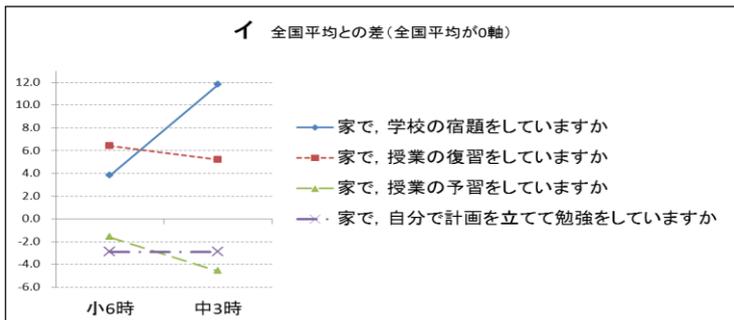
- ・ 算数(数学)の学習で身に付けた知識を日常生活場面で活用することが苦手のように。身の周りにある数や形などの算数に関係のある事柄に興味をもち、数や形を組み合わせたり、分解したりしながら、算数(数学)と関連させて解決を図る必要があります。
- ・ 公式やきまりについて学習するとき、その根拠を理解しようとしている児童生徒が多いという結果でした。公式やきまりのもつ意味を理解できれば、他に活用することができるので、ただ知識として教えるのではなく、その公式やきまりのもつ意味を理解させる必要があります。

(2) 学習状況調査より

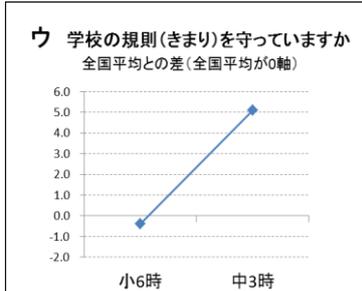
ア～ウは、質問紙調査における同一学年の児童・生徒の経年変化を示すグラフです。4段階で「1 そう思う」と答えた児童・生徒の割合を示しています。



全体的な傾向として、全国平均を大きく上回ったまま推移しています。本市における「夢や志をもたせる教育」や「ほめる運動」の成果が現れていると考えられます。



- ・ 全国と比べると家庭学習における宿題の比重が非常に高くなっています。特に中学生でその傾向が強まっています。
- ・ 自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる児童・生徒は、小・中ともに少なくなっています。
- ・ 小・中ともに家庭学習の内容は復習中心で、特に中学3年時には予習をする生徒の割合が、小学6年時よりさらに低くなっています。



- ・ 規範意識については、小学6年時より中学3年時のほうが高くなり、全国比で5.1ポイント上回っています。

(3) 調査結果のまとめ

- ① 学力調査により、活用力を中心とした課題が多く残されていることが分かりました。
- ② 学習状況調査により、「本市の良さ」が見えてきました。
- ③ 家庭学習の質の見直しと見届けが必要です。

(4) 今後の取組と家庭へのお願い

① 学力の底上げと活用力向上に向けた取組

- ・ 各校ごとに調査結果を分析し、課題を明確にして組織的な学力向上対策に取り組むとともに、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」につながる指導力向上に努めます。
- ・ 学校生活の中で、児童・生徒が活用問題に取り組んだり、身に付けた知識・技能を生かして課題解決を図ったりする場面を増やしていきます。
- ・ 9年間を通した学びの中で、児童・生徒の学力が無理なく無駄なく身に付くよう、小中連携を充実させていきます。

② 良さを生かし、良さを学力に結びつける取組

- ・ 本市には自己肯定感や目標意識、学校生活や授業、家庭生活を前向きに捉えている児童・生徒が多いということが分かりました。これらの質問は、前向きであるほど学力が高いという相

関関係も見られる項目でもあります。今後も「ほめる運動」をさらに推進し、自分に自信を持ち、粘り強く学習に取り組む児童・生徒の育成に努めます。

- ・ キャリア教育の視点から、9か年を見通した「夢や志をもたせる教育」をさらに推進し、目標に向けて主体的に学習に取り組む児童・生徒がさらに増えていくよう努めます。

### ③ 家庭へのお願い（「見直し」と「見届け」）

- ・ 家庭学習にかける時間は比較的多いのですが、そのほとんどが宿題にあてられています。また全国と比べて、予習にかける時間が非常に短く、復習の割合が多いことが明らかになりました。家庭学習の内容が、与えられた宿題をこなすだけにとどまったり、復習中心の受け身型のものとなったりしていることが考えられます。「自ら課題に向かい、自分なりの解決策を探りながら考えを深める主体的な家庭学習」へ、家庭学習の質の「見直し」が必要です。
- ・ 家庭は、学校と並ぶ大切な教育の場です。子供たちの課題克服、夢実現のためには、家庭と学校が両輪となり、学力向上に本気になって取り組むことが必要です。ご家庭でも、子供たちが取り組んでいる家庭学習の内容はどのようなものか、充実感をもって集中して取り組んでいるか、しっかりと「見届け」を行い、これまで以上に「ほめる」ことにより、さらに「夢や志のために」自ら進む子供たちとなっていくよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

### 【参考】活用力を高めるための家庭での取組例

本調査における「B問題」は、主に「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力」や、「様々な課題解決を行う力」を問うものです。そのため、学校の授業ばかりでなく、日常的な社会生活や家庭生活の中にも、児童・生徒の活用力を高めるためのヒントがたくさんあります。

以下に、活用力を高めるための「家庭での取組の例」を、いくつか紹介します。

#### 国語科

- ・ 本を読んだあと、「一言で言うと、どんな内容だったの？」と聞く。〈要点を捉える〉
- ・ テレビ番組を見ているときなどに、「この中でだれが好き？ それはどうして？」「どちらがいいことを言っていると思う？」など問いかけ、お互いの考えを交流する。〈自分の考えや感じ方のもとになっている根拠を整理して考えを深めたり、他者の見方や考え方に触れて物事を多面的に捉えたりする〉
- ・ 「みんなが言っていたよ」「みんな持ってるよ」など、あいまいにまとめる言葉を言ったときに、「みんなってだれのこと？」などと確認する。〈事実と考えを分けて、情報を正確に捉える〉
- ・ 「ほしい物がある」と言ってきたとき、すぐに結論を出さず、「どうしてそれが必要なのか」、保護者の納得のいく理由を述べさせ、説得させてみる。（よりじっくりと考えを整理させるためには、「書かせる」とさらに効果的です。）〈根拠をもとに、自分の考えを論理的に述べる〉

#### 算数・数学科

- ・ 「買い物の合計はだいたいいくらかな」「敷き詰められているタイルの数は何個あるかな」など、日常生活の中で算数や数学に関連のある事柄を式や図に表して解決させるような問いかけをする。〈示された図や情報を基に、場面を的確に捉えることができるようにする。〉
- ・ 子どもが数や図について答えたことに対し、「なぜそう思ったの」など理由を聞き返してみる。〈筋道立てた考え、判断の根拠を説明する。〉
- ・ 「どれぐらいの重さ（長さ）かな」「〇〇時まであと何分」など、体験を通して量感を味わわせ、量感覚を豊かにできるようにする。〈数、量の感覚をもたせ、イメージをつかませる〉